

第58回全国壮年大会 主題講演

教会が元気になるには ~にもかかわらず、新しい共同体を求めて~

西南学院大学神学部教授・鳥栖教会協力牧師 濱野 道雄



本日のアウトライン

はじめに：教会と宗教の量的現状

1. 神の宣教：なぜ宣教するのか
2. 諸課題
3. 「エマージングチャーチ／これからの教会」とは
4. 日本における、これからの教会とは
5. 「出ていく教会」形成
6. 教会のDE&I（ダイバーシティ／多様性、エクイティ／公正&インクルージョン／包括性）を求めて

おわりに：「これからの、少し緩やかな教会像」は何をもたらすのか？



はじめに：教会と宗教の量的現状

日本バプテスト連盟

2010 → 2019 (コロナ前まで)

礼拝出席

−20.5%

經常献金

−19.5%

2012 → 2021

(ただしリモート礼拝出席者が全員は含まられていない)

−33.5%

−21.8%



教会員数はバプテスト連盟以外の多くの教派も、2000年ころから横ばいを始め、2011年頃から急減し始める。

カトリックは人口に比例程度の変化。

日本基督教団は1990年代初頭がピーク。

日本同盟基督教団は2010年頃がピークで漸減。

日本の人口のピークは2008年だが、その減少率を上回る教勢の現象は、次世代への「継承」が起こらなかったためか

→ 神学的に所謂「リベラル」的傾向を持つ教派から順に減少と言えるか？ ただし「リベラル」とは何か？ 個人主義の事か？ キリスト教シンパ層が教会外に膨らむことか？



第58回全国壮年大会 主題講演

他宗教でも減少

1995 → 2020

神道系 -18.7%

仏教系 -28.1%

新宗教 -17.6%

立正佼成会 -65.8%

PL教団 -44.2%

生長の家 -58.3%

その一方で、SBNRやネットサロンやNPOは増加

→ 教会とは、共同体とは、主体性を育むとは？

「集める」ではなく「出て行き繋がる」教会の可能性

同時に「集める」教会も続く

→ 主体的信仰（バプテスト）を育む教会とは？



1. 神の宣教・なぜ宣教するのか

「量的現状（教勢）にどう対処するか」だけならば「組織維持」が教会の目的になっているとも言え、さらなる教勢減少を招きかねない。

神の宣教に仕えることを第1の目的として確認する。

ミッシオ・デイ（神の宣教）

戦前： 神 → 教会 → 世界

戦後のミッシオ・デイ：神 → 世界 → 教会

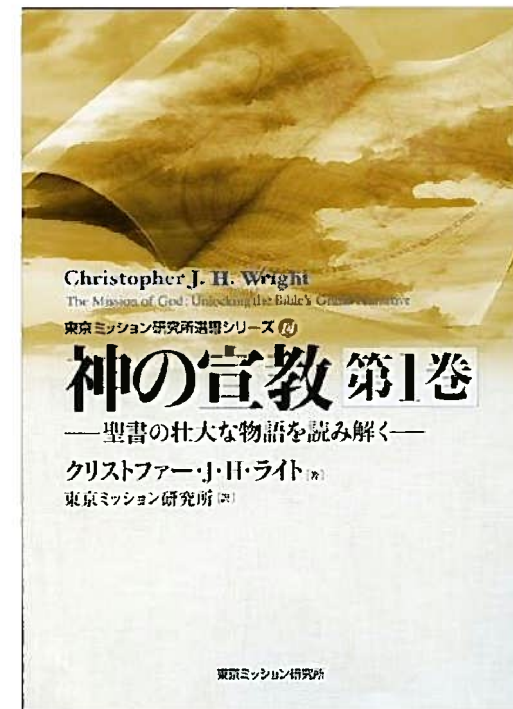


クリストファー・J・H・ライト 『神の宣教』

「私たちは次のように尋ねる、「私の人生の物語のどこに神をあてはめるのか」と。だが真に問うべきは次のようなものだろう。「神の宣教の偉大な物語のどこに、私の小さな人生は置かれるのだろうか。」

神は全被造物に自らを知らせようとする

- そのために神はイスラエルを選び、全人類と全被造物に祝福を届けようとする
- そのために神はイエスを送り、教会を建て、全人類と全被造物に祝福を届けようとする



「台本」としての聖書の物語（ブルックマン）

創造

- イスラエル
- イエス・キリスト
- 教会（今、ここ）
- 終末（ネタバレしていない）

読むだけでなく、その物語を生きる

「今舞台はどうなっている」「誰と生きる」「私たちは何者か」



2. 諸課題

1) 次世代についての課題

2012年から2013年で宣教部の集計方法が変わっているため、2013 → 2021 で計算

女性会	-16.6%
壮年会	-19.2%
青年会	-33.4%
少年少女会	-43.8%
小羊会	-43.7%

→ 次世代についての課題

全体で 現在会員 -17.4% 礼拝出席 -30.7% 経常献金 -20.1%

各会に入っていない教会員も増えたと思われるが、それでも次世代についての課題はある

日本の総人口 -1.5% (日本国籍者のみ -2.3%) 18歳人口 -7.3%



2) SBNR (Spiritual But Not Religious) : 靈的だが宗教的ではない

前世紀末より、人が集まらなくなった（共同体の重要性を感じなくなった）北半球の教会で切実なテーマ

「神は信じるけれども、教会には行きたくない」

「イエス様は大好きだけれども、礼拝には出たくない」

「信仰」と「教会生活」の分離

→ 牧師になろうという献身者に牧師家庭出身者が、西南神学部で現在8割なのは、この人々には「信仰」と「教会生活」の分離が否応なく起こり得なかったためではないか。



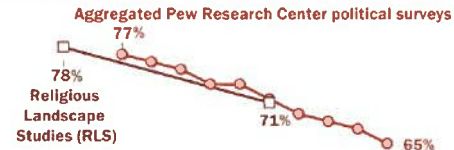
アメリカやヨーロッパの現状

(昨年の壮年大会でのロドリゲス先生の資料より)

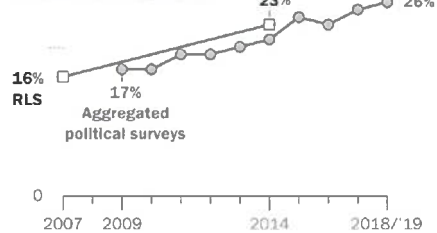
In U.S., smaller share of adults identify as Christians, while religious 'nones' have grown

% of U.S. adults who identify as ...

... Christian



... religiously unaffiliated



Source: Pew Research Center Religious Landscape Studies (2007 and 2014). Aggregated Pew Research Center political surveys conducted 2009-July 2019 on the telephone.

"In U.S., Decline of Christianity Continues at Rapid Pace"

PEW RESEARCH CENTER

A quarter of Americans now see themselves as spiritual but not religious

% who identify as ...

Religious and spiritual



Spiritual but not religious
Neither religious nor spiritual

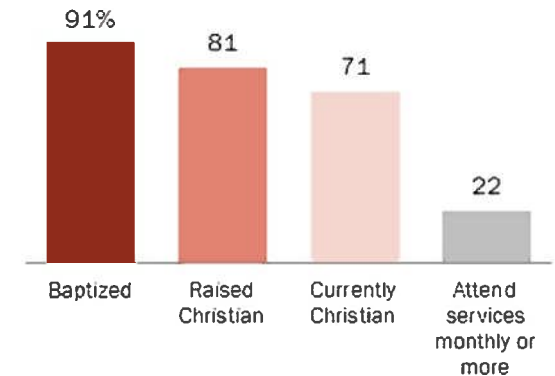


Religious but not spiritual



Most Western Europeans continue to identify as Christians, though few regularly attend church

Across 15 countries, median % ...



Source: Survey conducted April-August 2017 in 15 countries. See Methodology for details. "Being Christian in Western Europe"

PEW RESEARCH CENTER



共同体性の「崩壊」 (あるいは従来の共同体からの「解放」)

なぜ他の教会ではなく自分の教会のオンライン礼拝に参加するのか？
礼拝に出席したくても出来な人たちと共に生きる共同体をいかに形成しようと本気でしてきたのか？

日本の教会はコイノニア（共同体づくり）ベース

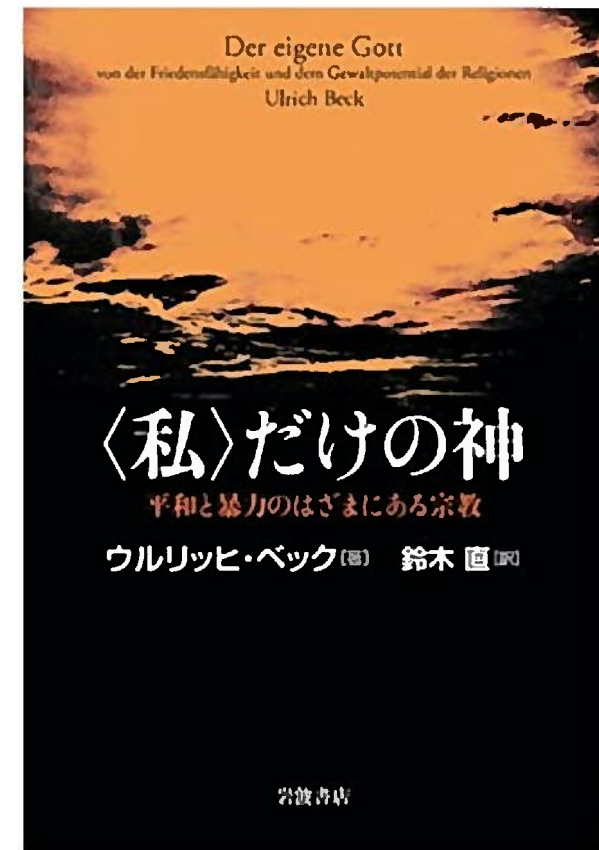
→ コイノニアが崩れれば、教勢は当然落ちる



ウルリッヒ・ベック

『〈私〉だけの神——平和と暴力のはざまにある宗教』（岩波書店、2011）

「一般的に宗教の個人化は宗教の私人化、すなわち公共空間からの宗教の追放と同一視されている（中略）。しかし、これは間違いだ。個人化が私人化につながることもありうるが、しかしそれは必然ではない。個人化が信仰の新たな公共的役割を開拓することも十分あり得る。（中略）脱私人化の例としては（略）、人権個人主義をあげることができる。この意味では、アムネスティ・インターナショナルは自分自身の神の現代における教会だといえる」



「所属なき信仰者」

データブック2023『神の国の広がり
と深化のために』 FCCブックレット
No.12 より

同書によれば、教会に所属していない人も含め、自らをクリスチャンと考えている人は、**日本人口の2～3%**

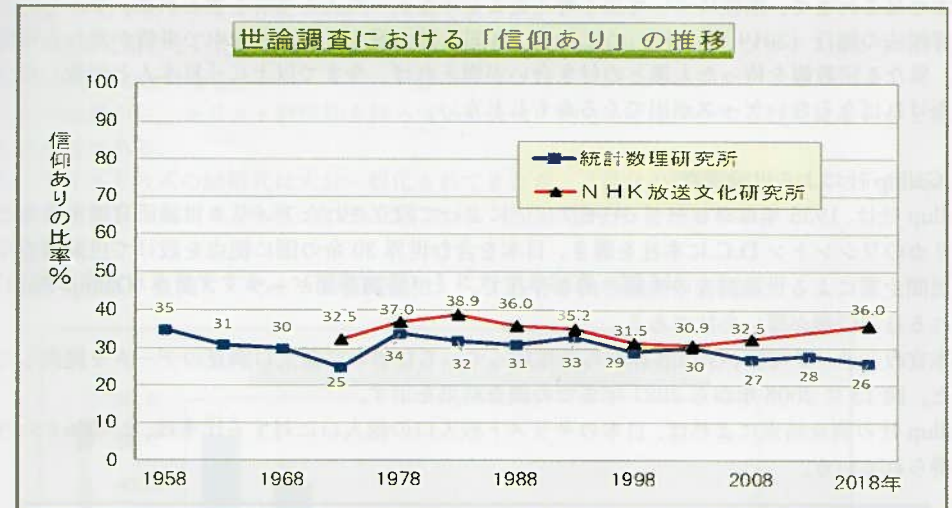


図 11 世論調査における「信仰あり」の推移

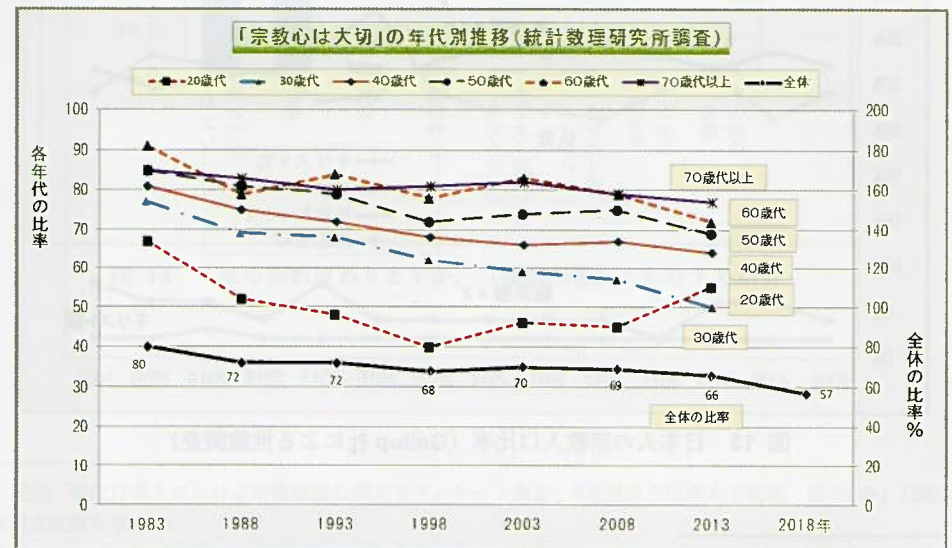


図 12 「宗教心は大切」の年代別推移

人が独りでいるのは良くない（創2：18）

すべて創られたものは「良かった」が、これが初めての「良く、無い」こと

→ アダムとイブが神と共に生きなくなる物語

→ 家族の中で、カインとアベルが共に生きなくなる物語

イエスの「共に生きる」：共食等

インマヌエルの神

三位一体の交わりの神

キプリアヌス（3世紀）「教会を母として持たない人は、神を父として持つことはできない」は正しいか？



『にもかかわかわらず、教会を信じる』（藤澤一清）

藤澤一清：戦争に対して、教会は罪責を持つ。戦争において「イエス・キリストは、どこに、どのような思いで、またどのような姿でおられたのか。にもかかわかわらず、あなたは教会を信じるのか。」「イエス・キリストは確かに教会におられたし、しかもおられる—十字架の姿において。ゆえにわたしは教会を信じる。」

使徒信条「我は聖霊を信ず、聖なる公同の教会、
…を信ず。」

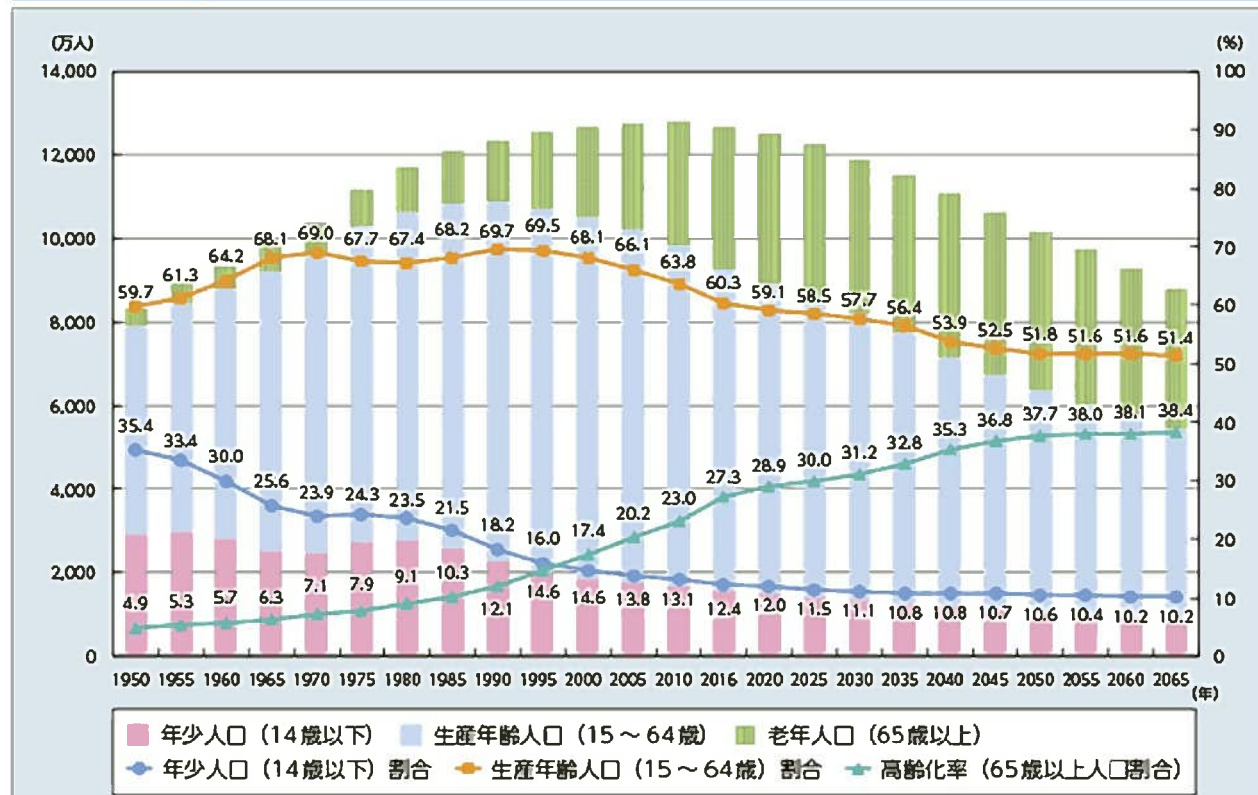
誤りや限界が多い「教会を信じて、何でも言う事を聞く」のではなく「聖霊が教会を建てること」を信じる。

死を超えて、永遠の命の物語へと、共同体がつなぐ



3) 人口減少と少子高齢化

図表 1-2-7 年齢3区分別人口及び人口割合の推移と予測



資料：総務省統計局「国勢調査」(年齢不詳の人口を按分して含めた。)及び「人口推計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)出生中位・死亡中位推計」(各年10月1日現在人口)
 (注) 1970年までは沖縄県を含まない。



3. 「エマージングチャーチ／これからの教会」とは 1) アメリカの教会像の変遷

リーダー中心型 (～60年代)

組織中心型 (60年代～)

目的主導型 (80年代後半から90年代～)

エマージング型 (21世紀～)



リーダー中心型

牧師が結局、あれこれ決める

今も日本に少なくない

365日24時間対応する「出来る」牧師

課題： 最悪な場合ハラスメント発生

無牧師になった途端、教会の働きストップ

牧師とその家族にだけ犠牲を強いるケース（イエスの教えた神の国のスタイルと、それは同じか）



組織中心型

信徒の多数決で決める

民主的で、バプテスト的でもある

課題：他の教会や地域には無関心になりかねないか

教会の宣教を決める3つのニーズ「聖書のニーズ、
地域や世界のニーズ、教会のメンバーのニーズ」に
偏りがでないか



目的主導型

牧師や信徒という「人」ではなく、言葉による目的で決める
権威主義やポピュリズムにはならない

課題：目的外の出会いに、小回りがきかない

他のプログラムを、目的のための「手段」としてしまう

SBNRや「宗教の個人化」の時代（神は信じるけれども、既存の教会にはいきたくない）に、その目的にあわない人は教会を去る



2) エマージングチャーチ／これからの教会とは

4番目に、ポスト近代の教会として出てきた教会像：

エマージング・チャーチ（新しく出現する／これからの教会）

21世紀、教派を越えて、北半球の教会に広がる

「多様性」を重視するポスト近代の教会論なので、一枚岩ではない

→ 3つの流れ（マーク・ドリスコル）

- 1) 適応派（ポスト近代社会の現実に合わせ、伝統を守る）
- 2) 再建派（ライフスタイルを提示する教会）
- 3) 修正派（リベラルな、対話的な神学の提唱）



エマージング・チャーチに共通するの4つの特徴

スコット・マクナイト（北バプテスト神学大学）

ポスト近代であること （多様性が、教会と神学にある）

実践的であること （実際のライフスタイルを伴う信仰）

教勢拡張主義ではないこと （他宗教や、市民運動とも対話）

政治的なかかわりをもつこと（倫理や正義の重視）

近代：「誰にとっても、答えは一つ」

ポスト近代：「誰が答えるかで、答えは変わる」

→ 「なんでもあり」か「答えは神のみが知る」か



Whatever happened to the Emerging Church?

エマージング・チャーチに対する「左右」からの批判：

保守主義 : 一つに真理や権威を定められないからダメ (南部バプテストからも多い意見)

リベラル : ポストトゥルース (脱真実) : 自分の真理を信じ込み、トランプ大統領を生み出すからダメ

グレイグ・ナッシュ (バプテストのベイラー大学)

今ある教会のプログラムの中で、異なる人が共に生きる世界を目指せば、教会は大丈夫ではないか。

「狼が小羊と共に宿り」、全世界から全ての人が、罪人と呼ばれている人々が、

招かれる場所としての教会



4. 日本における、これからの教会とは

- 1) 少しゆるやかな教会像（基調イメージ）
- 2) 次世代の主体性を育む環境づくり
 - A ライフスタイルを見せる関係づくり：信徒の教会を目指して
 - B ピアグループづくり
- 3) 「見えない教会」形成
- 4) DE&I（ダイバーシティ／多様性、エクイティ／公正&インクルージョン／包括性）を求めて



1) 少しゆるやかな教会像 (基調イメージ)

リーダー中心型にせよ、メンバー中心型にせよ、
目的主導型にせよ、どこかに中心を定める
教会像だった

これからの教会像として、北海道などで
よく見る「矢羽根」では



教理とはガードレール (フスト・ゴンザレス)

二つの矢印

狭すぎないこと (みんな同じ、でもない)

誰かを犠牲にして教会形成をするべきではない

広すぎないこと (なんでもあり、でもない)

人の痛みに関心になり始めたら、要注意

→ 教会の真ん中には、十字架 (痛み・弱さ)



「強さ」や、「同じこと」ではなく、「弱さ」を絆に

ヨハネ19：25～30

イエスの十字架のそばには、その母と母の姉妹、クロパの妻マリアとマグダラのマリアとが立っていた。イエスは、母とそのそばにいる愛する弟子とを見て、母に、女よ、見なさい。あなたの子です」と言われた。それから弟子に言われた。「見なさい。あなたの母です。」その時から、この弟子はイエスの母を自分の家に引き取った。



2) 次世代の主体性を育む環境づくり

バプテストの特徴は、自覚的信仰者であること

→ 神と人の間には、キリストしか立たない

→ 他の人に言われたからではなく、主体的に教会形成を担う

→ 「主体的になれ」と命令しても、主体性はできない

ではどうすれば主体性は育まれるのか？

福岡連合宣教会議のためのアンケート調査（原田仰神学生、2023）

信仰があると自覚している青年13人のうち、教会奉仕に「主体的に関りたい」6名、「関わりたくない」4名、「仕方なく、言われたから関わる」4名



A ライフスタイルを見せる関係づくり：信徒の教会

大嶋重徳 『若者と生きる教会』

「このポストモダン社会において人間関係を構築するために効果的な方法としてEPICという言葉が紹介されます。EとはExperiential（経験的である）、PとはParticipatory（参加型である）、IとはImage-driven（物語やメタファーでイメージを喚起する）、Cは、Connected（気の合う仲間とのつながり）です。こういう条件を満たせば、この時代の人々に効果的に福音を届けることができる、そして伝道も成功すると言われていています。」



「若者たちにとっては、大集会の案内やチラシを幅広く配ることよりも、自分たちで同じ世代の若者を誘うことが最も効果的な伝道になっています。つまり、チラシを配って「ここに真理がある」と言われて、「なるほど、そうか」と思ってくるのではなく、〈だれが〉「ここに真理がある」というチラシを渡してくれたかが鍵になるわけです。そのチラシを渡してくれるのが私の友人であるか、それとも見知らぬ人であるのか。顔も知らないような人に渡されても、若者たちはそこに行こうとはしないのです。」



第58回全国壮年大会 主題講演

「キリスト者として生きるとは、このように生きることでもある」という一つの具体例を見せる。

「聖書にはこう書いてある」「教会はこう運営する」という「理論」も大切だが、教会ではライフスタイルそのものが証しをするのではないか。

「ああ、こういう人生は（も）良い」と思われるか、思っているか。

自らに嘘をついて演じて見せるのではなく、真逆で、福音に生かされ、時に迷う、本当の自分を、理路整然と論証するのではなく、そのまま見てもらう事で、証しする。その意味で「ゆるやか」が良い。 → 信徒の教会！



チャールズ・フォスター 『世代から世代へ：教会における信仰形成教育の適応課題』（原著、2012）

*信仰を形成する学習には、3つのモードがある。

発達段階的学習：聖書の物語を聞く。家庭や教会学校で行う。

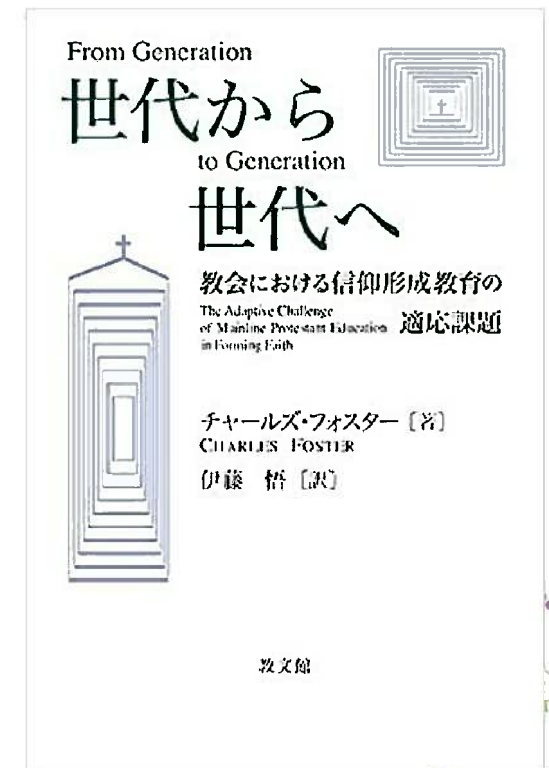
発見学習：合理的に神学を学ぶ。学校で行う。

実践学習：教会生活を、他の教会員を見て学び、習慣化する。

*近年の教会では実践学習が行われなくなってきたことが、次世代の信仰が形成されにくい理由ではないか。そして家庭、学校との連携も取れなくなっている。

*教会学校で、知識を学ぶだけでは、主体性は育まれない。カテキズム、対話を通して、教会で、礼拝で、「今、私たちは何をしているのか」説明すること。

出エジプト12：26、27「子どもたちが、『この儀式の意味は何ですか』と尋ねるときは、こう言いなさい。『それは主の過越のいけにえである。主がエジプトの地で、エジプト人を打たれたとき、イスラエルの人々の家を過ぎ越され、私たちの家を救われた。それで、民はひざまずき、ひれ伏すのである。』」



S. ハワーワス、W.H. ウィリモン 『旅する神の民：「キリスト教国アメリカ」への挑戦状』

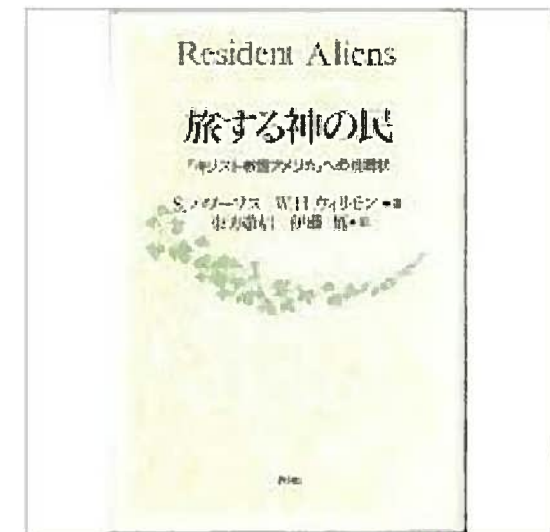
* 若者の教会離れ。

* メソジスト教会の堅信礼において求められるのは、キリストの弟子となること（他の教派でも今日高いニーズ）。

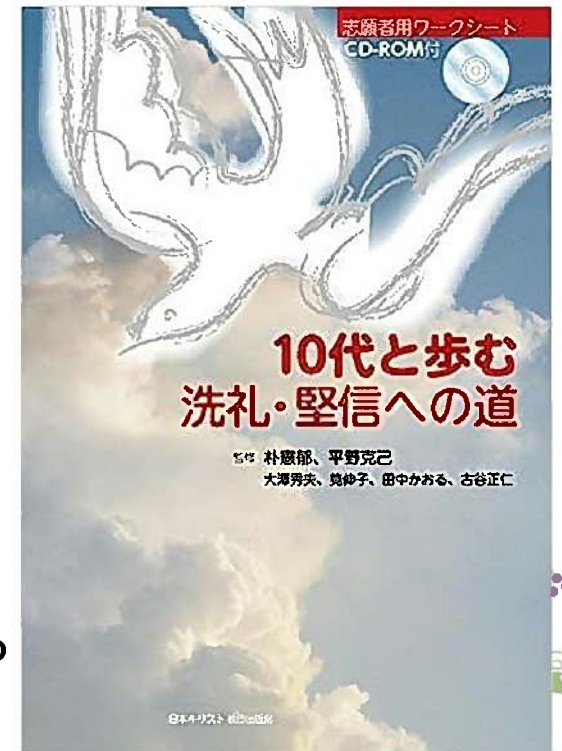
* 14歳の堅信礼志願者に、「担当者」「教友」をつけ、「教会生活」（聖書を読む、礼拝、予算を知る、役員会に出る…）を共に時間をかけて経験していく。

（カトリックの「代父」「代母」のように）

* 24歳の「担当者」が、14歳の志願者に、対話の中で教えられることも。



- 日本基督教団代田教会での取り組み。
テキストとして『10代と歩む洗礼・堅信礼への道』日本キリスト教団出版局。
- バプテストでも「小さな教会」としてのCS。
そこで「対話」はなされているか。
「ライフスタイル」を共有しているか。
理路整然として、一つだけの「正解」ではなく
「素」が良い。
ただ、私は教会を「素」で喜んでいるか？
「こういう生き方は良い」と自分で感じているか？



2) ピアグループづくり

ピアグループ：年齢・社会的立場・境遇などがほぼ同じ人たちで構成されるグループ。ただし、青年期以前のギャンググループやチャムグループと違い、性別や年齢をより超えていく。

岡村直樹「クリスチャンユースのラポール形成に関する質的研究」（2012）

「アイデンティティ発達理論を提唱したエリクソンによれば、ユース期（主に思春期を指す）とは、「自分は何者で、これからどう生きるか」といった質問の答えを求めつつ、若者のアイデンティティが形成される。…多くの若者はこの時期に、親を含めた権威者に対する反抗や葛藤を経て、それまでの「依存関係」ではない、心理的・情緒的自立を目指し、新しい関係性を求めるようになる。また親には打ち明けることの出来ない悩みなどの相談を、「ピア—」と呼ばれる同年代の友人関係に求め、彼らからのアドバイスやサポートを重視するようになる。」



「一方で近年、ユース期のアイデンティティ形成がうまくいかず、社会への適応や、特に安定した対人関係、またそれを構築するために必要なスキルを手に入れることの出来ない若者が急増していると言われる。」

→ ラポール（疎通性、共感性）のある場を作る必要

「クリスチャンリーダーが意図的にユースに対して「上から目線」で話すということは考えにくいですが、「ユースに教えてあげたい」「彼らに良いアドバイスをしてあげたい」と願うあまり、権威をも感じさせる強い言葉で語ってしまったことが、かえって思春期の彼らの心を閉ざし、ラポールの形成を阻害する結果になってしまうことは十分考えられる。…「教え」、また「重要なアドバイスを与える」のは、ラポールの形成の後であるという事を認識しなければならないであろう。」



教会学校

ラポール形成の場としての教会学校

「教師と生徒」ではなく「リーダーとメンバー」の意味

「共育」

リーダーの発表の場ではなく、ファシリテーター（引き出し、まとめる役）になれているか。

自分で語らないものは、理解できない。

カール・バルト：神が分かってから祈るのではなく、祈る時に神が分かる。



スモールグループ

各会活動、班活動、ミッショングループ
「伴走者」としてのリーダー

スモールグループの例：A教会の班活動

総務部は残し、自発的班活動主体に

利点：主体的活動、会議のスリム化

課題：グループ間調整、担当者による影響が大、
「頼まれた」方が動きやすい日本人？



「パラチャーチ」的存在

「パラチャーチ」：「福音派」の用語

hi-b.a. (high school born againers : 1951~)

KGK (キリスト者学生会 : 1947~)

定期集会、特別集会、キャンプ、居場所提供…

バプテストの各個教会主義との関係

ただし、2008年の宣教会議時には「連盟内『家出』」が話題に

バプテスト連盟において、少年少女大会、青年大会等がこのピアグループの場になっていたか

→ 連盟の機構改革の中、連合の役割 (福岡連合の例)



5. 「見えない教会」形成

1) 「見えない教会」とは

宣教リサーチ『神の国の広がりと深化のために』より
教会に所属していない人も含めた日本のクリスチャン数

Gallup社 2～3%

茨城県立医療大学 3.1%

國學院大學 1～2%

朝日新聞 6.1%

「集める教会」だけでなく「出ていく教会」を考える

「教会」の範囲、「契約」を再考する

ネット等を使う

兼職の可能性：サポートが無ければリスクも高い

「契約」を再考する時、複数教会による一牧師招聘も可能に

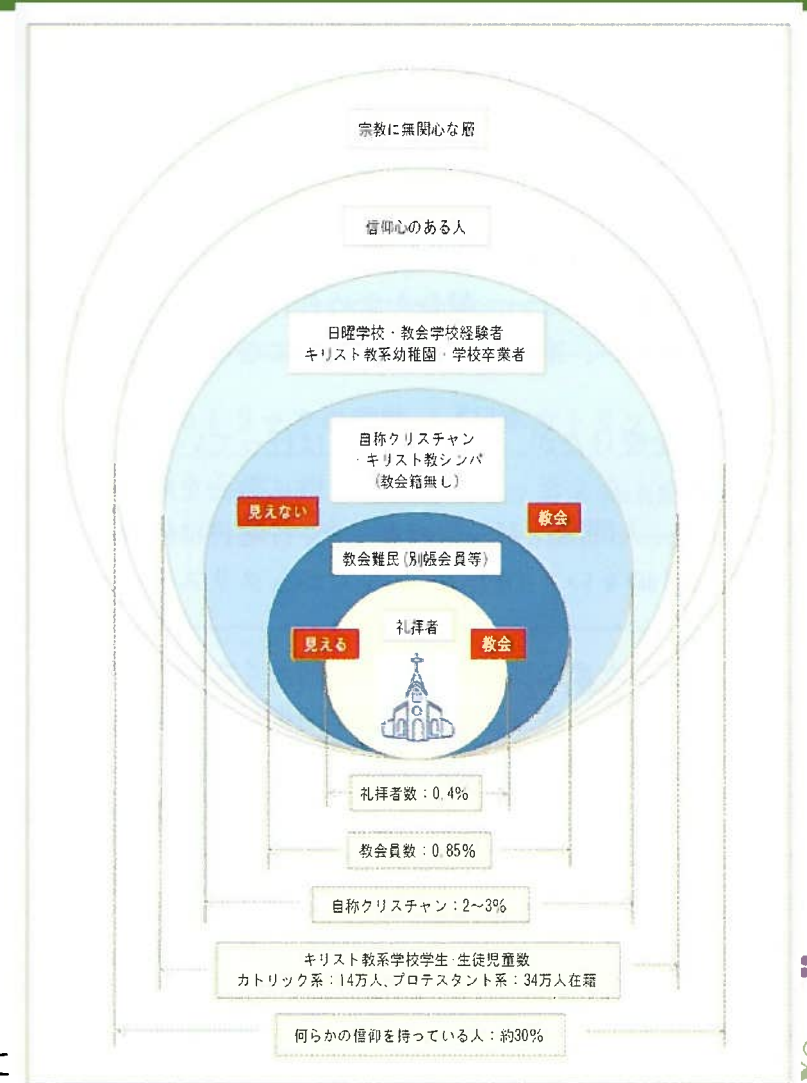


図 21 神の国の広がりと深化

2) バプテスト教会における「契約」再考

バウンデッド・セットからセンタード・セットへ

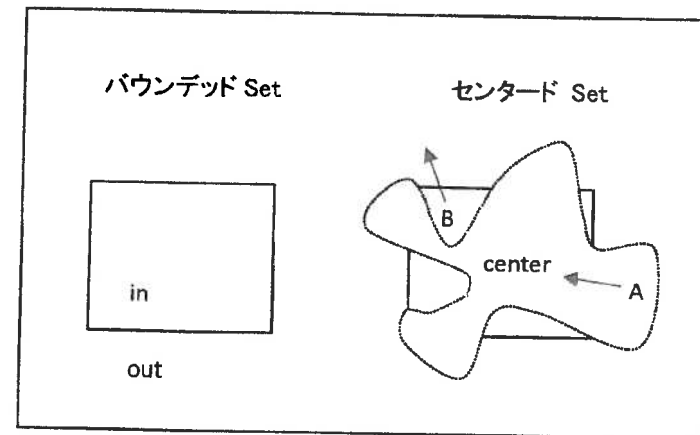
(2023年度日本宣教学会

における高見澤栄子氏の発表
資料より)

数学におけるカテゴリーの
2種類の作り方

「神の宣教」の物語を「センター」
(ただし点ではなく線)として、
キリスト者のアイデンティティ
のもう一つの捉え方ができないか。

バウンデッド セット論 と センタード セット論 (Hiebert, 1994) taken from Georg Canter



バウンデッド sets

そのものが持つ要素で分類 (色・形)
明確な境界線
内と外
内部の統一感・同一感

センタード sets

センターは何かを決定して、そちらに向かうか、離れるか。
明確な境界線はないが、ある程度の境界線が確認できる
方向性と同等な性質



バプテストは信仰共同体であり、契約共同体である

← 信仰告白を各自の言葉で語る

「教会の約束」は本来重要（アメリカの礼拝堂の例）

一教会で、全員「同じ」契約とすべきか？

あるいはより「緩やか」な契約にして、多くの人が入れるようにするか。

← 「ネット会員」をメンバーとするか

「外の教会」と「中の教会」にそれぞれの牧師を置いた例

教会の「一性」=包括性、「普遍性」=多様性（加えて「聖性」「使徒性」：二
カイア・コンスタンティノポリス信条）



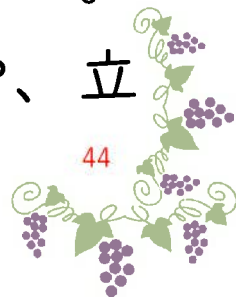
3) 兼職、NPO、ワーカーズ・コレクティブ等

クリスチャン、宣教者としてのアイデンティティを保ったまま、ライフ&ワーク・ミックスがより積極的に考えられるか。

東京バプテスト神学校、九州バプテスト神学校の大きな可能性。

ただし、アメリカのバプテストでは兼職牧師が過半数だが、日本の労働システムは変わりつつあるとはいえ、非正規雇用者に厳しい。

サポートシステムを協力伝道で考えるべき（奨学金や退職金や、立ち上げや横のつながりのサポート）。



日本における兼職の具体的可能性

それまで従事してきた仕事以外に、備えるなら

キリスト教学校や保育園等の教員

← 街による・少子化・行政との距離

日本は欧米や韓国などと違い社会的起業に対する法整備が遅れているが（藤井敦史）：

NPO ← 行政の下請け化の課題、煩瑣な手続き、出資できないので事業性制限

ワーカーズ・コレクティブ、ワーカーズコープ（労働者協同組合）

2022年新法施行、従来の強い規制が緩和し法人化可能に

山口陽一氏「今後の可能性として期待」

NPOと違い、3人からでき、業種も多様で、出資ができる、

手続きの煩瑣性も軽減

ただし、最低賃金に追いつかないケースが多いか、という課題

他にも、一般社団法人（教会関係で増えていますがけれども、大規模になるか）、株式会社（営利目的でないことを株主が理解するか）も。



4) 複数教会による牧師の招聘

教会員の「教会契約」に「緩やかさ」「多様性（公同性）」「包括性（一性）」をより重視するなら、牧師と教会の契約も、より多様に考えても良いのでは。

→ 複数の教会それぞれと「契約」を明確にするならば、そしてそれを複数の教会が協力伝道の事柄として喜べるなら、バプテストだからこそできるスタイルがあるのではないか。

→ ただ、実際には「一教会から他の教会への派遣」という形をとるものが多い。こちらがなじみやすいかもしれない。そこでもそれぞれの教会の「契約」は整理する方が良い。



5) 学校、福祉施設との協働

箕口窓香「中高一貫キリスト教主義学校が生徒に与えるキリスト教的影響についての質的研究」(2023年度 日本キリスト教教育学会発表)

「なぜ洗礼を受けないか」：「考えたことがなかった」「必要を考えない」

← SBNR

教会の文脈と社会の文脈に橋渡し役としてのクリスチャン教師

西南学院大学神学部における神学コース生と人文学コース生の「シナジー効果」：大学院ではクリスチャンとしてのアイデンティティをもったワーカーになっていく人が増えている。キリスト教学校教員、福祉施設ワーカー、学芸員等。そこで例えば「説教と講話は何が同じで、何が違うか。それぞれの難しさから、お互いがより学ぶことができる経験」などが起こる。

文科省や厚労省の「しめつけ」に抗して、神の「国」を。



6. 教会のDE&I

1) DE&I (ダイバーシティ/多様性・エクイティ/公正性&インクルージョン/包括性) とは 共同体離れの時代

従来から：例) 父権制、日本における殺人犯の過半数は親族

近年：例) 子ども会加入率の減少 (原田仰神学生発表より)

(田中卓也他、「日本における『子ども会』の現状と新しい時代に向けてのあり方に関する一考察」、『環境と経営：静岡産業大学論集』、2020)
2013-2019減少率

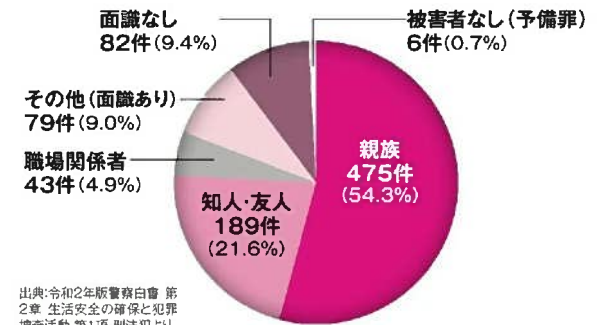
児童・生徒数 5.17% 減

子ども会加入率 17.92% 減

子ども会加入者数 22.2% 減

入会しない理由 「役員の負担が多い」 34%、「メリットがない」 18%、
「行事に魅力がない」 9%

事件は親族間で起きている
殺人の被疑者と被害者の関係別検挙状況 (令和元年)



日本バプテスト連盟

少年少女・青年会メンバー

2013年 1835人

2018 1473人 → 20% 減



新しい共同体のあり方に必須なDE&I

例) 「多様性を認め合う学院づくりに向けた宣言

～西南学院ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン推進宣言～

新約聖書のルカによる福音書10章25節から37節「善きサマリア人のたとえ」において、イエスは、追いはぎにあったユダヤ人に対して、様々な違いを越えて手を差し伸べたサマリア人こそが、このユダヤ人にとっての真の隣人になったと説きました。

民族や国籍、宗教、文化、身体的・精神的特徴、価値観など、多様性に富む社会で、互いの境界を主体的に越え、他者を自分の隣人として受け入れ、互いの尊厳を守り、尊重しあうというダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンは、キリスト教精神に立脚する西南学院の教育理念に通底するものです。

西南学院は、創立者C.K. ドージャの遺訓「西南よ、キリストに忠実なれ」を建学の精神とし、キリスト教精神に基づき、「真理の探求および優れた人格の形成に励み、地域社会および国際社会に奉仕する創造的な人間を育てる」という学院の使命を達成するために、様々な取り組みを進めてまいりました。

いまここに、改めて西南学院は、園児、児童、生徒、学生、教職員、同窓生、その家族や友人、様々な協力者に至るまで、学院に関わる全ての人々が手を取り合い、それぞれの個性を「賜物」として認め合う、隣人愛に生きる各学校・園・保育所であり続けることを約束し、基本方針を定めた上で、ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの推進に取り組むことを宣言します。



第58回全国壮年大会 主題講演

《基本方針》

1. 隣人愛としてのダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの共有
西南学院は、ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンを学院に関わる全ての人々の間で共有できるように、知識の習得や意識の醸成を目指した取り組みを進めます。

2. 文化的多様性の尊重

西南学院は、教育や研究をはじめとしたあらゆる学びと働き場において、学院に関わる全ての人々の国籍・民族・言語・宗教などの文化的多様性が尊重されるように努め、それぞれの個性と能力を十分に発揮できる環境を構築します。

3. ジェンダー平等の促進

西南学院は、教育や研究をはじめとしたあらゆる学びと働き場において、学院に関わる全ての人々が、ジェンダーによるいかなる不利益を被ることなく、それぞれが対等かつ公平にその役割と責任を担うことができるよう、ジェンダー平等を促進します。



第58回全国壮年大会 主題講演

4. SOGIEの多様性の尊重

西南学院は、教育や研究をはじめとしたあらゆる学びと働き場において、学院に関わる全ての人々のSOGIE（Sexual Orientation：性的指向、Gender Identity：性自認、Gender Expression：ジェンダー表現）の多様性が尊重され、安心して個性と能力を十分に発揮できるよう、相談・支援体制を整えます。

5. 障がいのある人への理解と支援

西南学院は、教育や研究をはじめとしたあらゆる学びと働き場において、学院に関わる全ての人々が、安心して個性と能力を十分に発揮できるよう、それぞれの障がいの状態や特性、ニーズを理解したうえで合理的配慮を行うとともに、相談・支援体制を整えます。

6. ユニバーサルデザインの推進

西南学院は、教育や研究をはじめとしたあらゆる学びと働き場において、学院に関わる全ての人々が、不自由や負担を感じることなく、安全かつ公平にそれぞれの個性と能力を十分に発揮できるよう、ユニバーサルデザイン化に向けた取り組みを進めます。



2) 聖書におけるDE&I = 神の「国」

イザヤ11:6~9

「狼は小羊と共に宿り／豹は子山羊と共に伏す。子牛は若獅子と共に育ち／小さい子供がそれらを導く。牛も熊も共に草をはみ／その子らは共に伏し／獅子も牛もひとしく干し草を食らう。乳飲み子は毒蛇の穴に戯れ／幼子は蝮の巣に手を入れる。わたしの聖なる山においては／何ものも害を加えず、滅ぼすこともない。水が海を覆っているように／大地は主を知る知識で満たされる。」



マルコ2:15

「イエスがレビの家で食事の席に着いておられたときのことである。多くの徴税人や『罪人』もイエスや弟子たちと同席していた。実に大勢の人がいて、イエスに従っていたのである。」

ルカ13:29

「そして人々は、東から西から、また南から北から来て、神の国で宴会の席に着く。」

- 「異なるものがバラバラに」でも「同じものが共に」でもなく、
「異なるものが、共に」生きる世界（バプテストは本来こちらであったのでは）



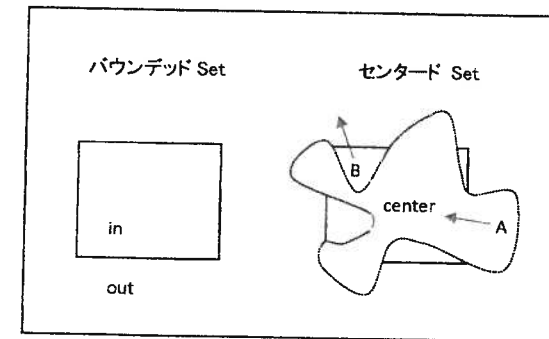
3) 多様な世代と共に生きる

- 次世代の主体性を育む環境づくり
 - A ライフスタイルを見せる関係づくり
 - B ピアグループづくり

- バウンデッド・セットに加えて
センタード・セットへ

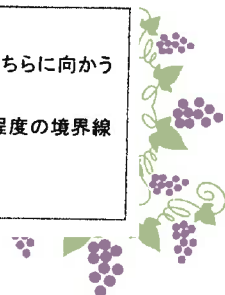
例) A教会と、そのB集会所の関係について一致できる「総会」とはもはや「別」を考えてみるべきか

バウンデッド セット論 と センタード セット論. (Hiebert, 1994) taken from Georg Canter



バウンデッド sets
そのものが持つ要素で分類 (色・形)
明確な境界線
内と外
内部の統一感・同一感

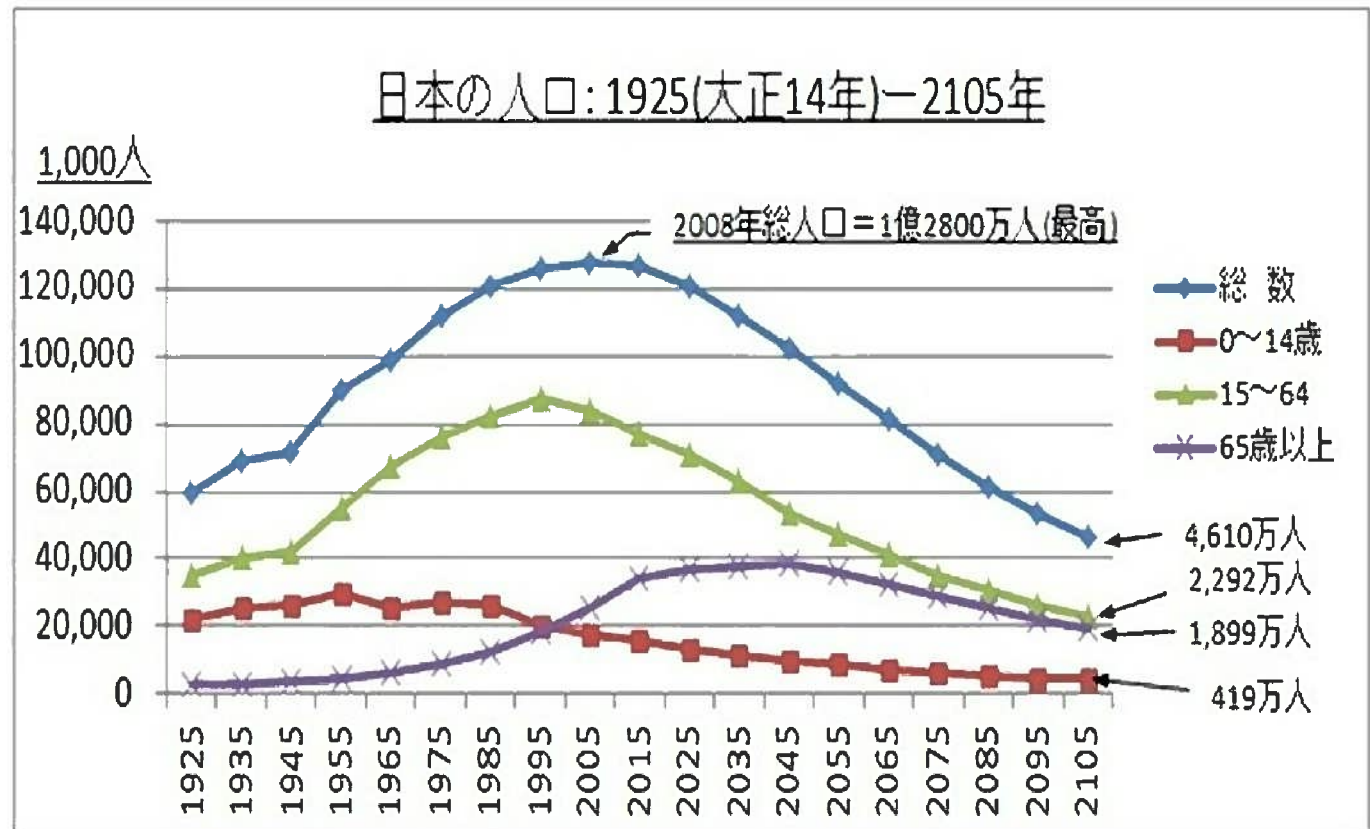
センタード sets
センターは何かを決定して、そちらに向かうか、離れるか。
明確な境界線はないが、ある程度の境界線が確認できる
方向性と同等な性質



4) 外国籍の人々と共に生きる

2070年には日本総人口の1割は
外国籍者になる。

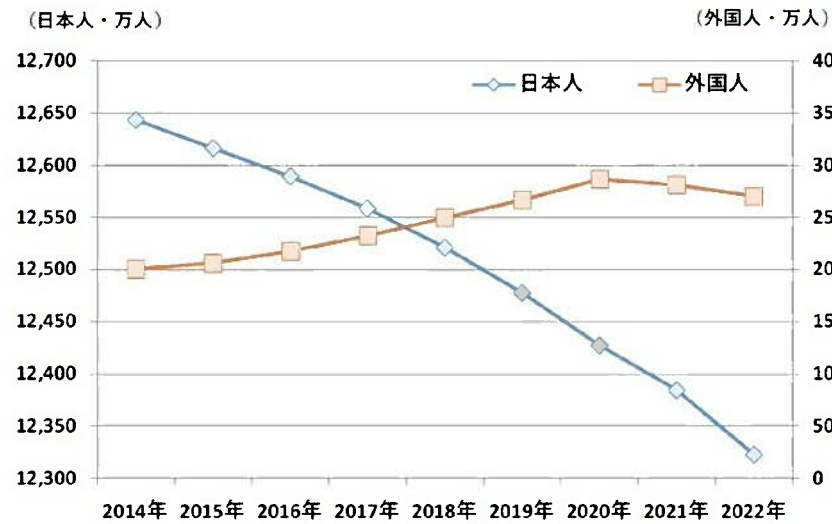
(総務省統計局)



○

図表-1 人口の推移(全国)

[人口の推移]



[前年比(人口増減)の推移]



(注)1月1日時点の人口

(出所)総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」をもとにニッセイ基礎研究所作成



生まれた土地で生きて行けるようにグローバリゼーションを是正しつつ、まずは多文化共生を目指す

政府方針：日本の経済水準維持のため、エリートか、実習生を積極的に受け入れる
入管法今年改悪

実習生の環境：法律は改正されても違反が8割。一つの「非正規雇用労働者」。

法務省2016調査「過去5年間に日本で外国人を理由に侮辱されるなどの差別的な発言を受けた経験のある人は全体の29.8%。また、日本で住居を探した経験のある人のうち、外国人を理由に入居を断られた経験がある人は39.3%だった。」
(毎日新聞)



教会ですべてのこと、できることは？

日本カトリック教会では2005年に外国籍信徒数が日本籍信徒数を超える
連盟加盟諸教会等の例

少子高齢化するカナダでの、カナダ合同教会の取組

言葉の壁？ 牧師等が「つなげ」ば、センタード・セットで、別礼拝で良いのでは

長崎県大村入国管理センターで活動する

長崎インターナショナル教会の柚之原寛史牧師

生活の課題

地域ネットワークの必要

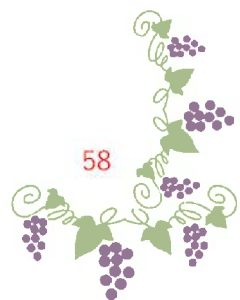


5) 多様な身体・精神と共に生きる

生きる場所（コイノニア）としての教会（宣教リサーチ『次世代を育てる宣教インフラの整備』等を基に計算した中島瑞樹院生発表より）

日本の子ども、青年（7～25歳）で支援学校・学級に通う人は2%程度だが、その人々は礼拝出席する子ども、青年の8.4%以上にあたり、一般の4倍以上の障がいのある子ども、青年が集まっている。

しかし教会の半数で「特に対応していない」と回答している。この意味は何か。合理的配慮は、特別視しないことでもある。



障がい者と教会委員会『共に礼拝し、共に宣教する教会』

西南学生団体 Peers MEG冊子より「合理的配慮とは、障がいのある人から、社会の中にあるバリアを取り除くために何らかの対応を必要としているとの意思が伝えられたとき、負担が重すぎない範囲で対応することをいう。合理的配慮は障がい者を優遇させることではない。視力の低い人が眼鏡をかけること。背の低い人が踏み台を使うこと。このように障がいがあっても同じスタートラインに立てるようにすることが合理的配慮である。」

「講演型説教中心の礼拝」「詳細な資料の読み込みが必要な総会」等も、多数者への配慮だけで行われているかもしれない。



6) 多様な性と共に生きる

日本の人口の7.6%はLGBTs

(電通ダイバーシティ・ラボ調査 2015)

「私の周りにはいない」?

カミングアウトするには危険すぎる環境だからかもしれない

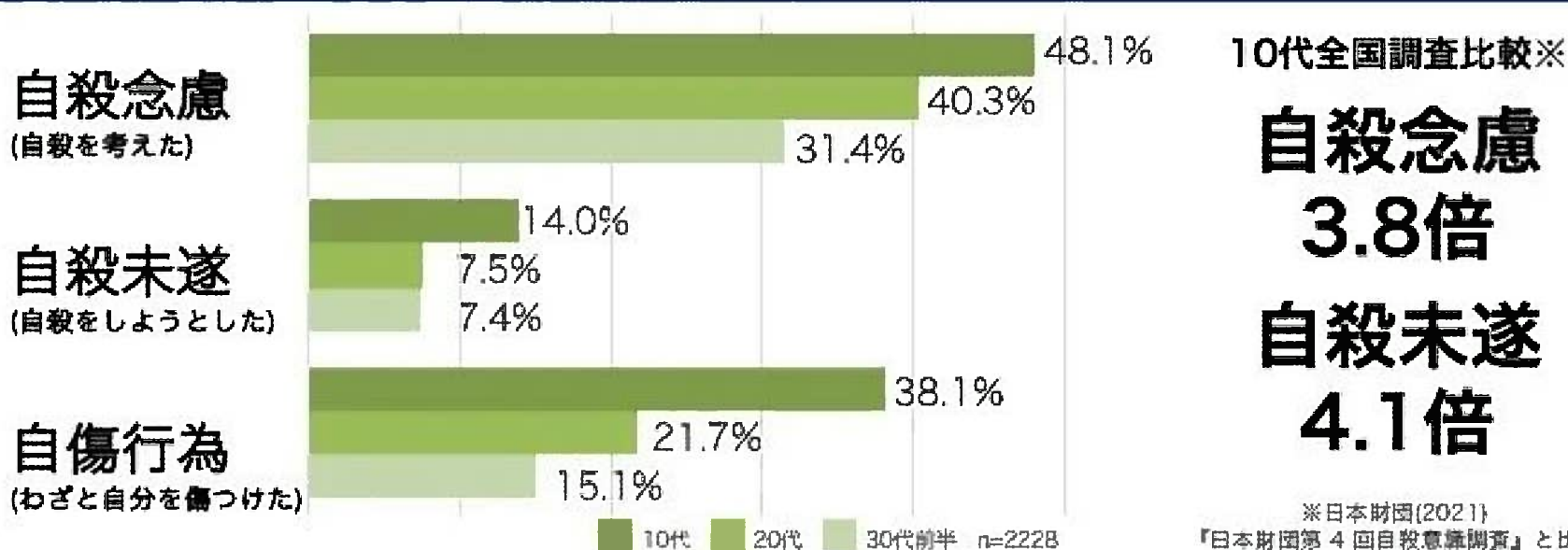
アウトティング: 本人の了解を得ずに人々に話す

(2015年 一橋大学の自死事件)



LGBTQの子ども・若者調査2022

この1年に経験したこと（自死・自傷）



10代LGBTQは、この1年で、**48.1%**が自殺念慮、**14.0%**が自殺未遂、**38.1%**が自傷行為を経験

※アンケート概要：＜回収期間＞2022年9月4日～30日 ＜調査方法＞SNS等インターネットで募集
＜回答数＞2670 ＜調査実施主体＞認定NPO法人ReBit

ReBit



おわりに：「これからの、少し緩やかな教会像」は何をもたらすのか？

1) 「主体性を育むこと」と「出ていく教会」（2重の教会）、そして「DE&I」を兼ね備えつつ

実際には「集める教会（バウンデッド）」と「出ていく教会（センタード）」の二つを行うことになるだろう。

2人以上牧師を置けない教会の働きはより忙しくなるか？

協力伝道と「信徒」の働きの重要性は増す。

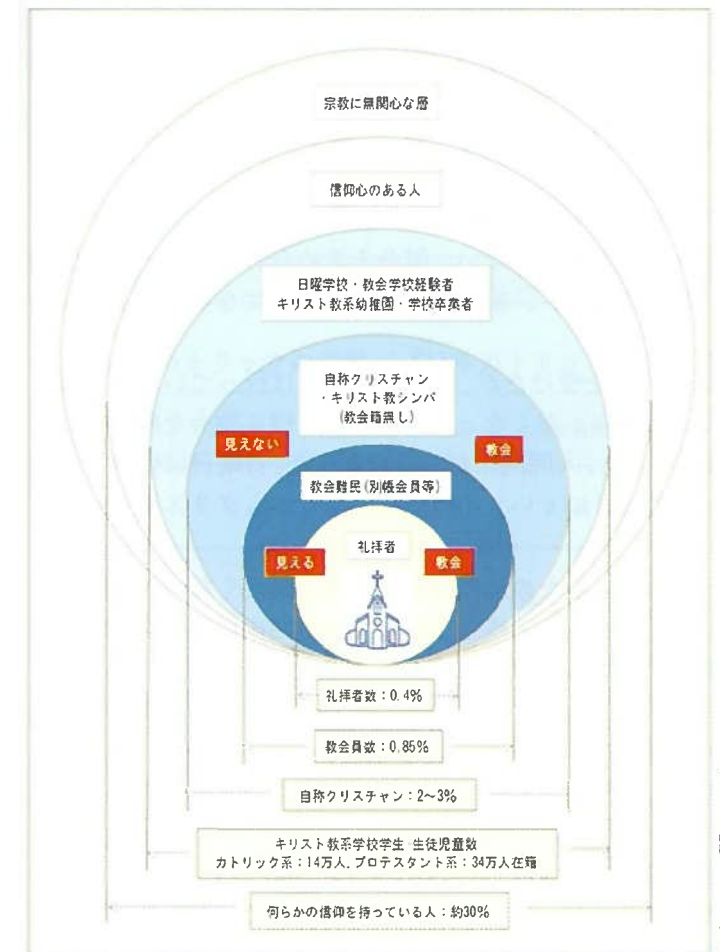


図 21 神の国の広がり と 深化

2) カトリックに学びつつも、「カトリック化」ではなく、バプテストの新しい可能性を求めて

日本のカトリックの教勢は横ばい

→ これは必ずしも外国籍者の増加のみが原因ではない（受洗者の数は、2009年以降、幼児洗礼よりも成人洗礼の方が多い）

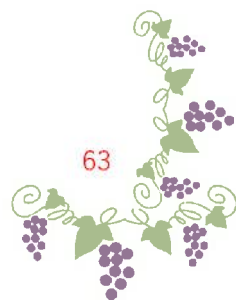
→ ミサ出席率はプロテスタントより低いが、率も漸減程度。

在籍教会員（他行会員も含む）の礼拝出席率 1999 → 2018

日本カトリック 29.7% → 23.4%

日本基督教団 45.6% → 30.1%

日本バプテスト連盟 43.6% → 34.9%



神父がミサをあげれば先ずは良いので、コロナ期にも対応はやかった。

これは「専門家」と、「裾野」の二分化？

「主体的ではない」日本人には適している？

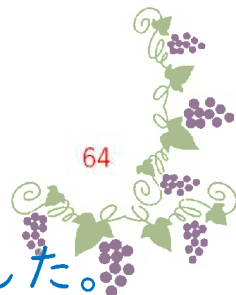
「信徒の教会」になる場合、「信徒の二分化」が起こるか。

よって「主体性を育む」こととセットで「出ていく教会」も考えたい。

ただし、「子ども会」加入率が減るように、「契約」や「負担」（本来なすべき宣教）については再考も必要。

契約の中身、方法を再考することで、バプテストの可能性を探りたい。

ご清聴ありがとうございました。



目次

はじめに：教会と宗教の量的現状

1. 神の宣教：なぜ宣教するのか

2. 諸課題

1) 次世代についての課題

2) SBNR (Spiritual but Not Religion) :

霊的だが宗教的ではない

3) 人口減少と少子高齢化

3. 「エマージングチャーチ／これからの教会」とは

1) アメリカの教会像の変遷

2) エマージング教会とは

4. 日本における、これからの教会とは

1) 少し緩やかな教会像

2) 次世代の主体性を育む環境づくり

A ライフスタイルを見せる関係づくり：信徒の教会

B ピアグループづくり：教会学校、スモールグループ、
「パラチャーチ」

5. 「出ていく教会」形成

1) 「見えない教会」「出ていく教会」とは

2) バプテスト教会における「契約」再考：バウンディッド・セットから
センタード・セットへ

3) 兼職、NPO、ワーカーズ・コレクティブ等

4) 複数教会による牧師の招聘

5) 学校、福祉施設との協働

6. 教会のDE&I

1) DE&I (ダイバーシティ／多様性・エクイティ／公正性&インクルージョン／包括性) とは

2) 聖書におけるDE&I

3) 多様な世代と共に生きる

4) 外国籍の人々と共に生きる

5) 多様な身体・精神と共に生きる

6) 多様な性と共に生きる

おわりに「これからの、少し緩やかな教会像」は何をもたらすのか？

1) 「主体性を育むこと」と「見えない教会」(2重の教会)、そして
「DE&I」を兼ね備えつつ

2) 「カトリック化」ではなく、バプテストの新しい可能性を求めて

